

ルカの福音書 第1章 38節

「マリヤは言った。『ほんとうに、私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおりこの身になりますように。』」

御使いガブリエルより受胎告知を受けた乙女マリヤの応答です。未婚の女性が子を宿すと告げられます。気が動転し、告げられたことばが耳に入らないほど衝撃的出来事であったでしょう。マリヤの驚きとショックは計り知れません。家族や親族、隣近所、そして社会の目を考えるなら、あってはならないことです。マリヤだけで事の次第を受け止めるにはあまりにも重い出来事です。

このような衝撃的御告げでなくても、主のみことばを軽んじたり、無視したり、拒否さえすることが多い世です。歴史の初めのころ、主なる神の御声を聞いた者たちは、そのみことばを無視しました。それ以来、人の耳は頑なに主のみことばを聞く耳を閉ざし続けています。

しかし、マリヤは耳を開き、こころを開き、応答します。「ほんとうに、私は主のはしためです。」この開きの姿、御前で徹底した謙りの姿勢こそ、マリヤのうちのみことばが成る素地です。主のはしため宣言するマリヤはみ旨のまま歩みます。そして、さらに祈ります。「どうぞ、あなたのおことばどおりこの身になりますように。」